

コロナ禍に 矯正施設 奮闘



刑務所における
ガウン製作状況

マスクやガウン製造で社会貢献

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けて、矯正施設がマスクや医療用ガウンの製造に取り組んでいます。その奮闘ぶりを「更生刻々増刊号」としてお届けします。

新型コロナウイルス感染症は、ヒトが戦いの末に終息させるのか、それとも静かなる共生に至るのか、どちらにしろ長い道のりになりそうです。今春の第一波の時期には、マスク不足を含めこれまでの生活の前提が崩れ、戸惑いが広がりました。社会ぐるみで新しい行動様式に迫られました。

縫製された同ガウンは、医療機関への迅速な配布を目的として、各縫製庁が所在する都道府県庁の指定する場所へ納品されています。罪を犯した人にとっても、自身の作業が新型コロナウイルスと戦う医療機関を支える一助となっていることにより、失った自信を取り戻すきっかけともなっています。

増刊号

更生 刻々

令和2年9月29日発行



法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560

✉ kouseishien-tokyo@cccs.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00101.html



森法相(当時)は4月の記者会見で、「厚生労働省からの縫製依頼を受け、医療機関等で用いるアイソレーションガウンを、5月中旬から10月までに全国41か所(支所を含む。)の刑事施設で約120万着を縫製することを発表しました。

管内では、府中刑務所や横浜刑務所など6か所の刑事施設において、これまで刑務作業で培ってきた技術や豊かな知識を生かし、日々、同ガウンが製作されています。

縫製された同ガウンは、医療機関への迅速な配布を目的として、各縫製庁が所在する都道府県庁の指定する場所へ納品されています。

遠くの子どもたちから フェイスシールドのねぎらい

●横浜刑務所

フェイスシールド50枚が横浜刑務所に寄贈されました。フェイスシールドには「いっしょにがんばりましょう。おうえんしています。」のメッセージと50枚それぞれにかわいらしいイラストが描かれています。

横浜刑務所の担当者は「私たち矯正の職務は、日の当たることは少ないかもしれませんが、ずっと見ている人は必ずいます。子どもたちから届いた素直で優しいメッセージに

勇気付けられ、人と人が支え合うことの尊さを改めて確信しました。」と話しています。



手書きの応援メッセージやイラストがあるフェイスシールド

医療者へ応援のメッセージ

●市原学園



千葉県市原市所在の男子少年院、市原学園では、在院者の「自分たちに何かできることはないか」との声をきつかけに、医療従事者に対する応援メッセージを作成しました。在院者のメッセージカードを一枚のポスターにし、市原市役所の市民ギャラリーに展示しました。

市民からは「皆さんのメッセージを読んで元氣になりました。ありがとうございます。」といった感想が寄せられ、在院者の自己肯定感の涵養にもつながったようです。



「コロナの「今」を問う職業教育

●甲府刑務所

「コロナ禍における有効求人率の低下が、出所者雇用にも確実に影響しています。」

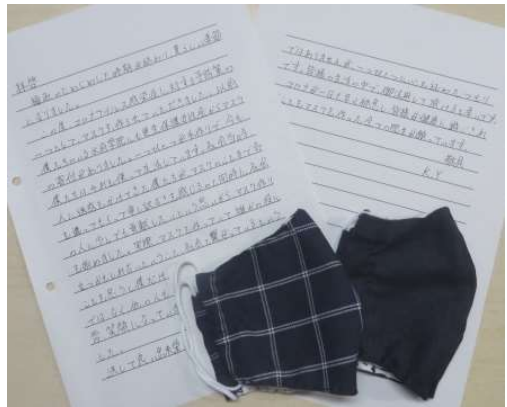
受刑者を対象とした専用人材の減少はもちろん、企業の採用担当者や受刑者の対面による面談も実施が難しく、受刑者たちの出所後の就労先を確保すること

が難しくなっています。そんなピンチをチャンスに変えるため、山梨県甲府市に所在する甲府刑務所では、「コロナ禍においても必要とされる人材を育成するべく、企業の協力を得て、企業の「今」を取材した動画を作成し、就労支援に活かしています。」

企業はどんな対策を講じ、どんな人材を求めているのか。受刑者は社会復帰を果たすまでに「今」何を考え何をすべきか。矯正施設は何をすべきか。これまでにない新しい視点で、意識の変化の必要性を訴える内容になっています。

●水府学院

社会貢献を縫い上げたマスクを寄贈



茨城県茨城町にある男子少年院、水府学院は、在院者が手作りしたマスク78枚を水戸市内のNPOに寄贈しました。マスクは、このNPOを通じて児童養護施設や学校などに配られます。

ある在院者は、NPO宛ての手紙の中で、「社会の人に一つでも貢献したいという思いでマスクを作りました。マスク作りで社会とつながっていると考えることで、自然と笑顔になった。一つひとつ心を込めたつもりです。」と作業に当たった気持ちを語っています。

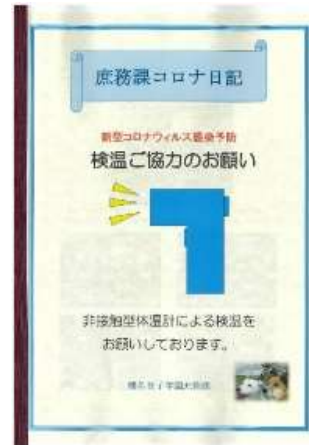
「コロナを「綴り」、未来へ「繋ぐ」日記

●榛名女子学園

新型「コロナウイルス」の発生後、矯正施設は感染防止対策に追われました。「外に出せない」被収容者を多数抱え、多くの施設が感染防止のため様々な取組を実施しました。



受付に置かれた手指消毒液



群馬県榛東村の榛名女子学園では、その取組を「庶務課「コロナ日記」として記録し続けています。時系列で、豊富な写真とともに、どんな指示が出され、どんな対策をとったのかが記録されていく「日記」は、きっと将来、また新たな感染症が発生した際に対応する職員の必携書となるでしょう。